

## 『高貴高齢者直前の5名、北岳に挑む』

2012年8月7日～9日

54期 杳掛文哉

10年来、毎週火曜日に鎌倉散策を続けている仲間の有志、神津勝重・小菅健司・杳掛文哉に、北杜市在住で八ヶ岳の森番役をしている荻原統夫と岡谷市でまだ現役を続けているゴルフ好きの林五介が加わって、南アルプスを代表する日本第2位の高峰・北岳(3,193m)に挑戦した。5人は同じ五四期会の仲間で、いずれも未だ誕生日を迎えていない74歳、後期高齢者(他人さまから前期だ、後期だといわれたくない!)にはなっていない。生れて4分の3世紀になる直前の記念登山である。家人から「頼むからTV・新聞を賑わせないで!」と忠告されているので、天候には十分気を使った。幹事役の神津兄が天気予報を入念に調べ、予定日を1日延期して出発した。お陰で3日間とも上天気であった。

1日目は広河原の登山口から白根御池小屋まで4時間弱の行程。6年前に新築された御池小屋は水が豊富で飲み水は無料、トイレも水洗完備で気持ちのいい施設であった。2日目、大樺沢二俣から左俣コースの雪溪に出る。近くに住むこれまた同期生の千村一平兄から借用した高性能のアイゼンを装着、山道と違い直線的に登る。雪溪の上を渡る冷風が快い。案ずるより産むが易し、1.5時間の避暑気分となった。北岳バットレス(屏風岩)が眼前に迫る。ロッククライマーの姿も見える。そのまま本命の北岳登頂の選択もあったが、楽しみは最後にと、八本歯のコルの先からトラバースして北岳山荘へ向かう。これがまた、神津兄の好判断で、高山植物の宝庫を十二分に鑑賞、帰宅後、花名を調べるのに苦心する羽目になる花の写真を沢山撮ることができた。山荘は昔ながらの山小屋の雰囲気を残すところだったが、夜中に起き出して観た降るほどの星の数々や雲間から頭を出した富士山にご来光が当たる一瞬に息を呑んだ。

最終日、朝食を1番組で済ませ、完全装備で山荘を5時半に出発、本命・北岳に向かう。寒気に震えながらも、雲間に見える富士山が印象的だった。8月9日午前7時30分、日本第2位の高峰・北岳山頂に5名が揃って立った。この感動を何と表現するか、誰に伝えんか。文才なき者の哀しさ、筆舌に尽くし難い。頂上には小1時間、心鎮まるまで留まる。標高の3,193mは「さあ、行くぞう!」と勝手に読み解いた。あとは下山あるのみ、大樺沢をひたすら下りに下りた。2日分の登りを1日で下るのである。生半可では着かない。一時はギブアップも已むなしと覚悟したほどであったが、登山口の広河原山荘が見えたときには地獄から極楽へと転じた。

甲府では特急を待つ間の1時間、B級ご当地グルメの祭展でゴールドグランプリを受賞した「甲府鳥もつ煮」を肴に、心ゆくまで登頂成功と無事帰還の祝杯を挙げた。

改めて、同行の諸兄及びエールを送ってくれた鎌倉散策仲間感謝したい。

みんな、ありがとう!

## 写真説明

1. 大樺沢左俣コース・雪渓を踏破！
2. 目的はあそこ！
3. 北岳は明日のお楽しみ！
4. 北岳山荘の夜明け
5. 揃って北岳山頂に立つ！
6. ミネウスユキソウ
7. チシマギキョウ
8. キンロバイ



写真1 大樺沢左俣コース・雪渓を踏破！



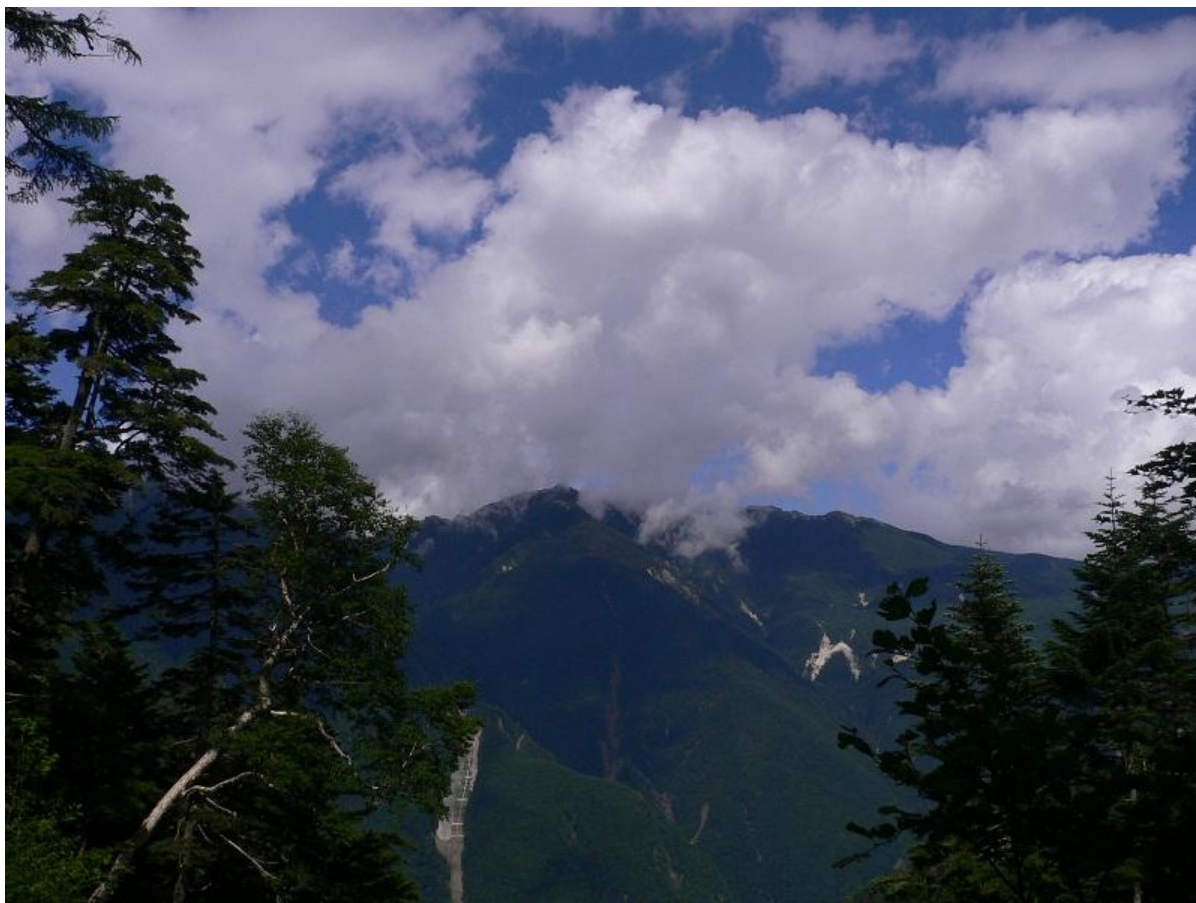


写真2 目的はあそこ！

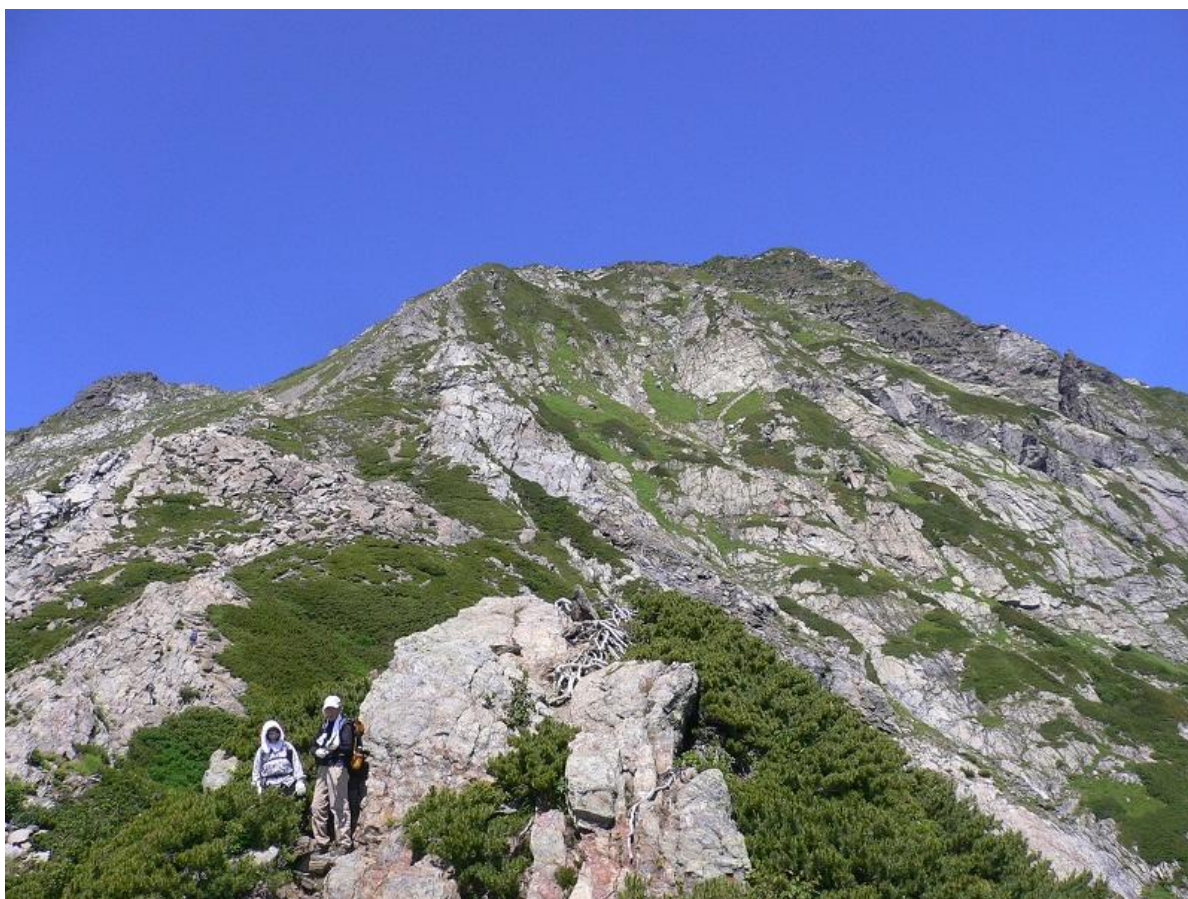


写真3 北岳は明日のお楽しみ！





写真4 北岳山荘の夜明け



写真5 揃って北岳山頂に立つ！





写真6 ミネウスユキソウ



写真7 チシマギキョウ

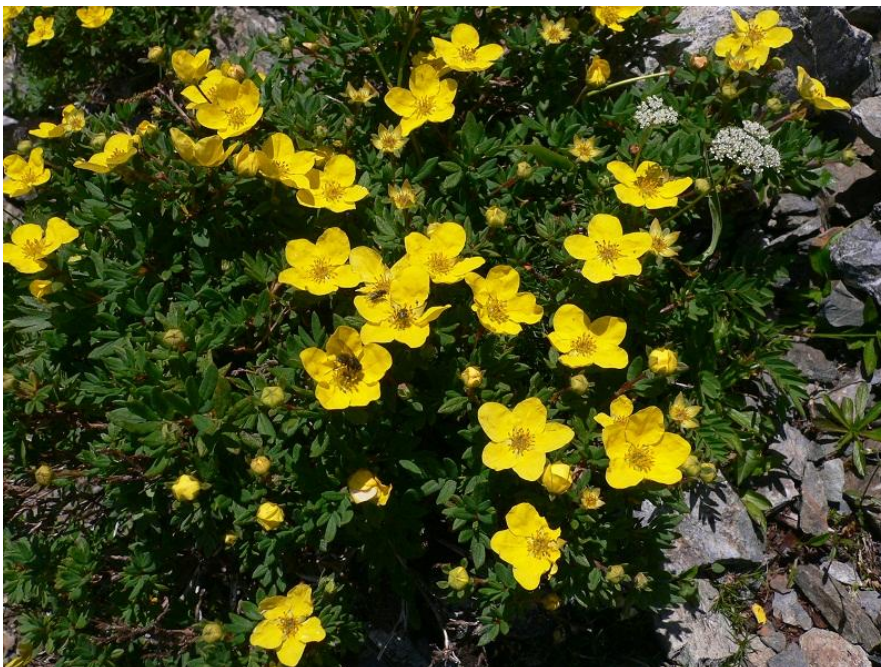


写真8 キンロバイ